

鯖一本釣漁業試験

期 同	第 1 次	30年4月12日 ~ 4月20日
	第 2 次	〃 4月26日 ~ 4月30日
	第 3 次	〃 5月 2日 ~ 5月 7日
	第 4 次	〃 5月15日 ~ 5月20日

使用船 指導船チドリ丸く19.57吨, 50馬力, 103型音響測深機

乗魚灯 100V, 200W, 10個 発電機 5KW 2KW

乗組員	第 1 次	調査員 山下	船員 10
	第 2 次	〃 岩倉	〃
	第 3 次	〃 岩倉	〃
	第 4 次	〃 碓原	〃

碎 氷	第 1 次	各々也
	第 2 次	
	第 3 次	
	第 4 次	

餌 料	第 1 次	冷凍いわし 120x 干ま 224x	計 1424x
	第 2 次	冷凍いわし 160x	160x
	第 3 次	冷凍かたくち 122.5x	122.5x
	第 4 次	冷凍かたくち 91x, 大羽まいわし 60x	

具 具 天秤釣 はね釣 (何れも根餌釣併用)

魚 獲 高	第 1 次	さば, 毛孺	440x	107.383円
	第 2 次	〃	565.4x	
	第 3 次	〃	16.4x	
	第 4 次	〃	128.4x	17.503円

観測

航海	月日	天候	気圧	風向力	波浪	うねり	水色	気温	水温				潮流	乗艇	乗員	漁獲	魚種
									0m	10m	25m	50m					
第 一 次	4/12	晴	1020 ^{mb}	NW 1	1	1	5	20.1	22.1	22.36	22.11	21.75	NW SSE	19-20 ~05-00		さば中小 253尾	佐多岬 1
	4/13	晴	1017.5	N. 1	1	2	4	20.6	23.2	23.32	23.15	22.48	粟生沖S急 永田沖SE	19-10 ~06-00		さば大 158	屋久島 7 3
	4/14	曇 小雨	1017.5	S 2	1	1	4	21.0	23.1	23.38	23.29	23.19	SSW 緩	19-00 ~05-30		520	3 4
	4/15	曇	1012	S 5	4	2	4	18.5	23.1	23.11	23.42	23.35	SW 急	19-30 ~05-20		595	3 5
	4/16	曇 小雨	1012	SW 5	4 5	3	4	19.8	23.2	23.27	23.25	23.02	WSW 急	19-40 ~04-50		230	5 6
	4/17	雨	1008	WSW 5	4	2	4	19.2	23.3	-	-	-	SW ~ E	19-10 ~05-00		440	6
	4/26	晴	1021	NNE 3	2	1	3	18.4	20.5				E 緩 速	19-20 ~05-15		さば中 2170	佐多岬 8
4/27	晴	1018	NE 4	3	2	3	18.2	22.4				ESE 稍 速	19-10 ~04-55		2120	8	
4/28	晴	1016	NE 3	2	1	3	19.1	21.9				E 緩 速	18-50 ~05-00		2180 40 45	8	
第 三 次	5.5	晴	1016	E 3	2	1	3	18.1	23.5	-	22.70	22.10	SE 緩 速	18-45 ~04-50		大きさば 66	屋久島 2 3
	5.6	晴	1017	SE 2	1	0	3	21.2	23.6	-	23.50	23.34	停	18-50 ~04-05		枚し	屋久島佐多岬 3 1
第 四 次	5.15	晴	1020	NW 1	1	0	-	20.5	22.1	-	-	-	上 NE 下 SE	19-40 ~04-50		87尾	守治群島 9
	5.16	雨	1015	S 2	1	1	-	19.8	22.4	-	-	-	上 S 下 SE	19-30 ~04-50		56	10
	5.17	雨	1010	NW 2	1	1	-	18.9	21.8	-	-	-	上 S 下 SE	19-30 ~04-30		1	9
	5.18	晴	1015	NW 3	2	2	-	21.2	23.2	-	-	-	上 NE 下 NE	19-10 ~05-10		304	11
5.19	雨	1005	WNW 4	3	3	-	20.2	22.9	-	-	-	上 NE 下 NE	19-10 ~01-00		189	12	

541

事

第2次航海

12日 19-20より佐多岬沖にて操業附近に鯖船9隻あり海況 下まぐ
手船共餌付悪い模様、24-00頃中小サバ浮上し竿釣で釣獲するも短時間
で漁獲は少なかつた、当海域は海況から見て見込なく13日05-00操業中
として屋久島一帯に向う。

13日 17-00乗生沖へ向う、然し潮流速く餌付きなきたため永田沖へ引
返す、22時操業開始、24時まで激濁な餌付きあり、04時極く短時間竿釣
を行う魚体は200~300匁程度で釣獲後放帰する300匁程度の合サバも
見受けられた。

14日 永田沖を操業20-10より餌付あり、21-00頃から30分位竿で200
匁~300匁程度のサバを釣る、餌付水深は15~20尋が一番長く夜明けは餌
付稀々察えるも水深20~25尋で釣獲したが他船が10隻近く集中してより
魚が攪乱されたか餌付は止まつた。

15日 19-30より永田沖操業、時化模様で操業4隻のみ、昨夜と同
じく20時より餌付あり、水深30尋より漸次岸上し20~30には竿釣で
少し漁獲す、24時まで15~20尋の水深で最大400匁平均250匁のサバ
を釣る夜明センソク鼻附近で大群が集まるも餌付余り芳しくなかつた、魚体
は永田沖のものより少し小さいようであつた。

16日 時化するも19-40よりセンソク鼻附近操業、本日より擬餌釣2組
も入れる、20時より餌付あるも縄立ち悪く漁獲らず、1時は強風で操業中
止、夜明短時間であつたが天秤擬餌釣で活潑なる釣獲を見た、擬餌釣の漁獲
率は非常に高いことが判名した。

17日 鶴瀬ノ鼻附近を19-00より操業、19-30より水深30尋にて餌
付あり、擬餌道具を4組に増して釣獲率の比較をした。餌付水深は15尋
で天秤釣の3倍位を挙げた、本日も時化模様で操業船2隻だけ餌付は24
時頃が一番長く夜明けは潮流がEへ速くなり余り芳しくなかつた、飼料は
く、05時鹿見島に向く

第2次航海

18日 09-40串木野出港佐多岬沖合に向う、19-20魚場着他船70

隻内外操業中、本船も直ちに操業にかゝる。漁具は跳ね釣具のみ、20-30頃大群浮上するも小型ムロ多く見込なく移動、潮流はE後、22-00頃より潮流速くなり餌付よくなる。魚体は9.0頃内外の中籍のみ、27日03-30より潮流再び緩くなり餌付は下火となる。05-15操業中止

4月27日 19-10取夜の漁場にて操業始む、他船凡そ50隻あり、凡波や>強く取夜に比べ各船は離れて操業している、夜半迄は取夜に比べ魚況不振20-30頃よりボツボツ餌付あり、魚体は前夜と大差なし、23-30イルカ数頭現われ魚群沈下、同時に移動、朝迄は餌付大差なし、04-55操業初め

4月28日 18-40操業開始するも餌付なし、他船50隻内外、20-20小群浮上するも餌付芳しくなし、他船も餌付悪さもようで移動多し、魚群は分布が広くなった様で各船は分散している。尚甲着船救統の操業も認められた。01-00頃大群浮上し餌付活発となるも01-30イルカ現われ群散逸す、03-00再び大群浮上するもムロ小魚多く芳しくなし、一般にムロ群浮上すれば餌付悪く朝上りするを可とす、餌付なく05-10鹿兒島に向い、29日11-44鹿兒島入港

4月30日 水場

第3次航海

5月2日 06-45屋久島向け鹿兒島出港、途中時化となり10-40山川入港迄泊に入る。

5月 3-4日 時化山川避泊のみ

5月 5日 09-15山川発、屋久島に向う。16-05湊着、大型船2隻、小型船假泊中、18-05湊発屋久島根に向う。19-45操業開始、20-00一尾餌付あるも他の餌付なく見込なし、22-15永田沖に向う、23-25永田沖着、02-00頃より水深10尋附近にて250頃内外の鰯餌付あるも朝迄に66尾を釣るのみ、潮流余り流れすのため漁はなかつたものと思われる。

05-35湊仮泊

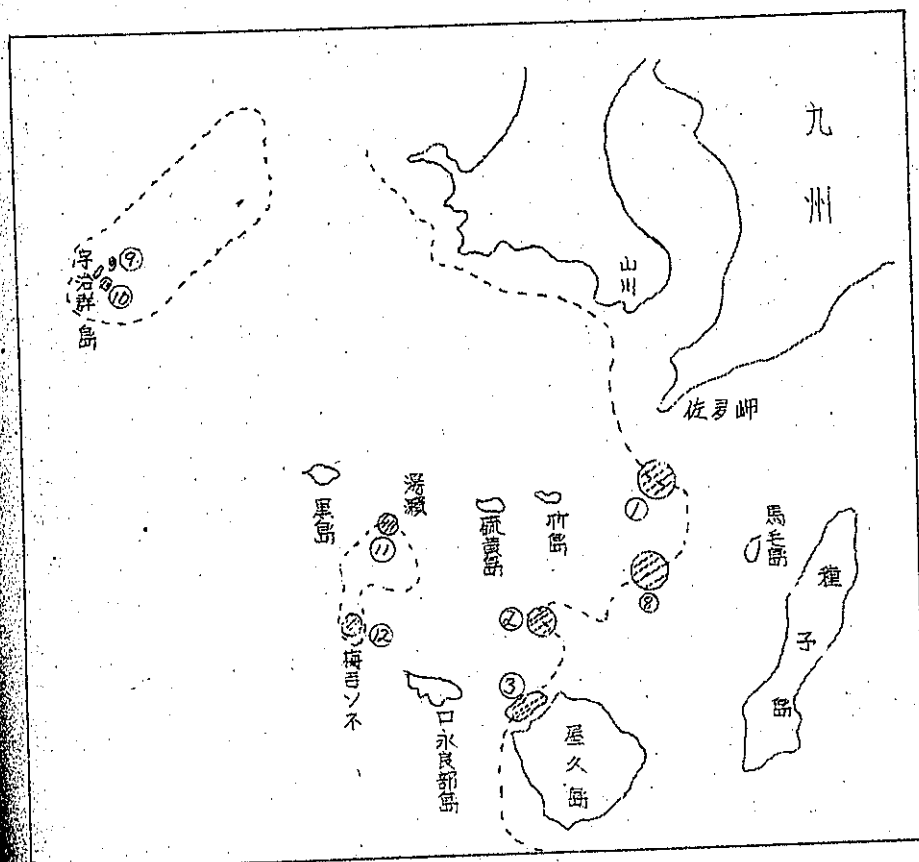
5月 6日 17-50湊発、18-20センゾク真沖着、18-50より操業するも餌付なし、見込なく佐多岬に向う。02-45佐多岬漁場着、操業するも魚なく見込なし。03-30頃より、時化となり04-05山川に向う。07-20山川入港、都合により7日で試験を打切る。

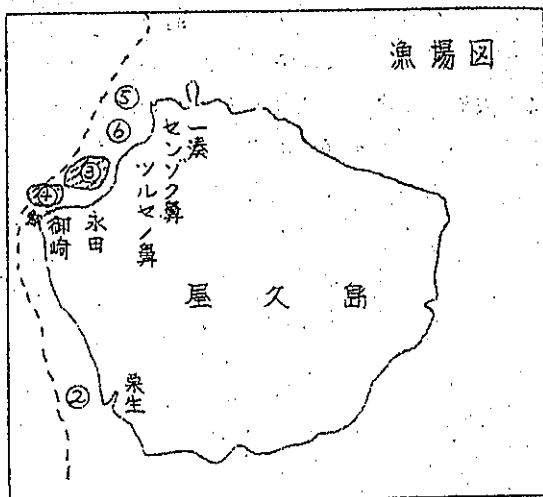
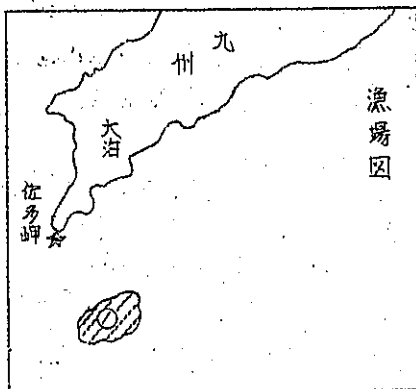
第4次航海

5月15日 10-50串木野発 守治群島に向う。18-45漁場着、19-40操業開始するも潮流NEにして20-30頃迄餌付皆無。22-00頃より天秤にてボツボツ釣れ始む、魚群深度20-25尋、魚体は大型のもので200-250g、24-30頃迄で朝迄好漁なし。

16日 18-40抜錨 19-30より敗島附近にて操業、潮流Sにして22-00頃迄魚なし、24-00頃潮流停止して450より錨泊のみ>操業するも餌付芳しくなし、夜明より時化もようとなり04-50止め。

17日：19-05 抜錨。宇治群島の漁況不振なるも待たせようのため再び同漁場の調
 査に向い19-30より操業始む。00-30潮流停止し餌付全くなし。01-30見
 込なく假泊、05-05より再び操業するも朝近にノ尾のみ。04-30 抜錨假泊。
 18日：06-50 宇治群島見込なく梅吉そねに向う、時間早く11-15 黒島仮泊、
 17-30 黒島発梅吉そねに向う。13-10より梅吉そねにて操業、他船凡そ40隻
 あり、22-30よりはね釣りにてめ、良好な餌付あるも24-00より沉下し天秤に
 てポツポツ釣れる、04-00頃より再び釣れるも芳しくなし。魚体は宇治群島の比べ
 て不揃で中サバ混りであった。05-16 操業やめ07-15 口永良部仮泊
 19日：17-20 口永良部島発 前夜より南の④に向う。19-10 操業開始、22
 -00 頃は昨夜同様可成り餌付よし、23-30頃より風波強くなり操業困難となる。
 01-00 操業を断念し串木野に向う。
 20日：15-45 串木野帰港





▶ 擬餌釣道具について(夜間操業) ◀

サバ釣における擬餌釣の使用は、昼間操業の中、小サバ釣では数年前から実用期に入り、本県でも既に相当の成果を収めている。しかしこの漁具を夜間操業のサバ釣には使用したと云うことは聞いていなかった。

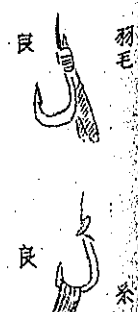
今次サバ漁業試験の際、屋久島——漁民は網糸を利用した擬餌釣を用いて非常に好成績を収めているので、試験的に下記の仕様で漁具を作成して浮上しないサバ群(200~300匹)を目的に天秤釣と併用して漁獲率を比較したところ、擬餌釣は天秤釣と異なり餌かけの手間もはぶける上に非常に餌付きがよく、天秤釣の3倍の漁獲率を示した。これによって従来の夜間における擬餌釣不可能説は解消されたことになり、今後夜間操業に一部使用すれば、餌料の節約、漁獲率の増進に一石二鳥的効果があるものと考えられ、参考までに当所使用の漁具、使用法、結果等を紹介いたします。

- 漁具
- 繩 普通サバ釣に用いる麻糸、せきろま
 - 幹糸 合成ノ介2号 4尺間に切り両端をツボ結びとする。
 - 枝糸 合成 8号 5寸長 5本位が適当、数は多い方がよいのであるが夜間操業であり熟練しないと、道具をさばききれず、怪我をしやすい。
 - 釣 寸4 擬餌は羽毛、絹糸、絹糸であるが絹糸が一番好
 - 錠 鉛又は鉄 100丸 /ケ

使用法 普通一本釣と同じであるが、夜間操業は船の動きが激しく、釣が浮上する前に釣が沈んでしまう。そのため、釣を4.5尋上下させるべきで層を探せば釣を投入しての位置に運すると直ぐ餌付があると云う激しい喰いが多い。

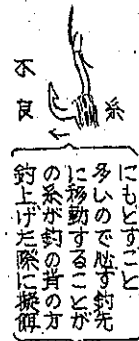
又この操業は船についたサバを逃がさぬため、3人は天秤釣で擬餌をする必要がある。

結果 指針船でノ人当り、同時回の釣獲率は次の通りで、一夜同人数では



1人時間当りより低下する。なお技術は夫々多少差はあるが考慮し
なかつた。

	1人当り時間漁獲	1夜当り人数漁獲
擬餌釣	65尾 (33.2)	223尾 (297.2)
天秤釣	19.6 (100)	75尾 (100)



にむすこと、
多しので、
移動する
に釣るこ
の糸が釣
釣上げた
釣上げた
釣上げた
釣上げた

瀬魚一本釣漁業試験

期	回	第一次	昭和30年3月29日 ~ 4月8日	(前年度報告済)
	二	〃	9月10日 ~ 9月17日	
	三	〃	9月18日 ~ 9月27日	
	四	〃	10月28日 ~ 11月8日	

使用船 指導船5ビリ丸 (19.57 Ton 50HP) NEC 103型魚群探知機 25W無
線電信機装備

大組員	第二次	調査員	岩倉	船員	11名
	三	〃	〃	〃	10
	四	〃	山下	〃	10

氷	第二次	5 屯
	第三次	2.3 屯
	第四次	6 屯

餌料	第二次	すまかつお 30 x 700	まるぞうだ 17 x 250
	三	い か 21 x	まるぞうだ 26 x 300
	四	い か 20 x	まるぞうだ 56 x

夜高	第二次	ちびき他 121 x 950	44,762 円
	三	ほた他 116 x 500	43,458 円
	四	ほた他 262 x 700	67,598 円